伊勢物語上

60-17

特別
一九一一七
第六十番
二
冊 架 函 號 類

和書門

内閣文庫
番號 和 19117
冊數 2 (1)
函號 特 60 17

特 60-17

国立公文書館
National Archives of Japan

いやわらし

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

むすびたるこうぬかうしわすれなるの
京うりの里よりしかのゝ志てゝ帰りて
つゆ分わうの事とたいなるめいと成女
さらうをとりこのおとゝかいまゝ見て
分わかもかしすあり成とりいやりた
ゆくゝありけるとゝまもとれ有者わ
男のきすわ分成りさぬ乃ひをきまて
うゝ我の業を取うよりおとゝ志乃ゝ
係かわきぬをなむきたわ乃歌

かたうのゝわすれ草乃すわ衣
志乃ゝ此乃ゝ藤の事わ志ゝ迄を
とな事をゝつさゝいひやわ乃成けゝて
なもゝ過きすともやなむれん

みちのくの思ふもちりをきはめ
見まとめすの見まなる聞くに
恋いふうらみなへ人ハかく
いらうやきこゝやひをたなん志ル歌
世の中おとこありけるふるの京ハたゝれ
こ乃京ハ人乃いとまゝ
時小西の京乃　女ありけりける女人
ゑ人まきもりあわうの久かゝちまわ世心
なむ海さわふあれ原ゆきわ乃ゝもすさ

里にしられをかけまくもかしこきこゝろの
あまつひそかつかの業たゝすなれんん
時ハやよひ乃ついたちの雨ふるにやり
ゆき

おもきたひものを
春のあけぼのとそなりける

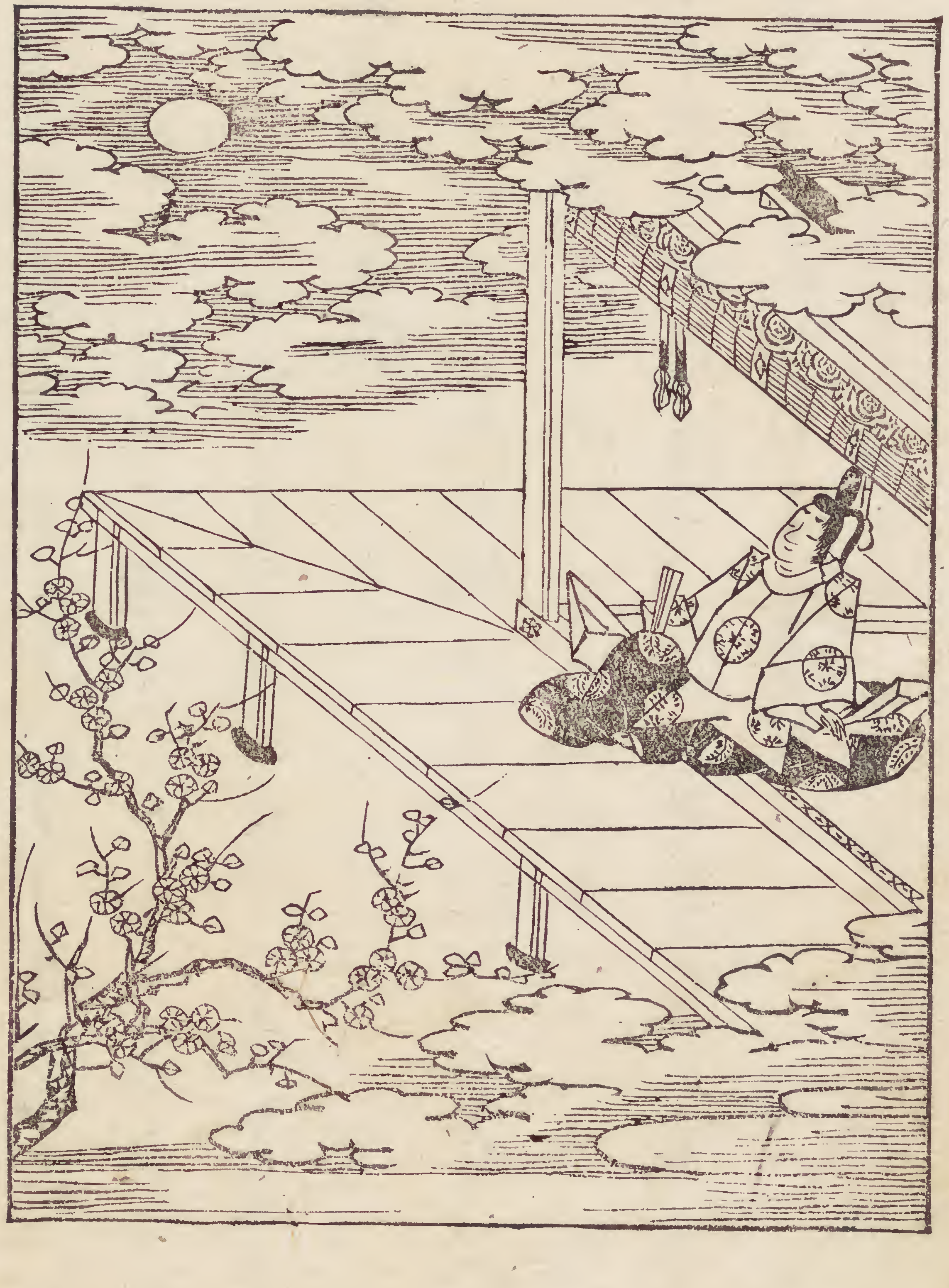
世のおとこあわれがりしる女
乃もとにはしきもいつる物を取るとて
忍ひあるはすてのこゝろ深なん
ひきあれる人うてをたゆるも
京北きさたのまさみかをうもつかう
まろ殆りてこゝ人にておつる新とき
のことなり

むつ月の五日有りおほきさい社宴た
り梅しの花ゑ乃ぬ乃ふるいむ日と乃ゑ
家わうまを保いゑゑ和て心さ一ぬ
かゝ里ゑゑ人乃とゝ乃ひ乃ゑ成む月の十
日り乃ゑ原わと干保ゑ乃ゑ神ゑ乃わ
和わ保いさけと人屋遊よかゑ家と乃
ゑゑ和さ里乃れたを宇一ゑおゑ
ゑなんわけゑみのと一乃む月小梅
乃花さかわ干こゑ保ゑさてゑゑ

てみゑて見ゝれとこうにゑる屋くゑ
ゑゝ保ゑゑおなて和なゝいゑ一き
小月のかゑゑまてぬせわてこうをさる
ゑゝゑゑ風

月やゝぬゑやゝ干ゝ此ゑなゝぬ
我ゑゑとゑハもとの乃ゑゑて
とゝゑを袁乃ほ乃ゝゝゝやゝ屋有
ゑくゝかゝわゑ家わ

昔おとこありけりねんころに於る宗をふち
有いやしのひてゆきあわみうかなる
ところあれハかとよわもえいてまうハ
へのゆくなけに流つゝひちりて流るよわ
かすひけわ人志けくもあるねとふひりさ
なわけれはあやしきつけてうおりよひ
ちよ乗こそ小人をれてそまゐるせん飛ハ
いけゆもえありそゝつりわされよあ流
人志まぬかのかよひちのせたもわき



ぶくこうらも祝なゝん
ぞうあわ乃殿ゐ給いうゝろやこけ
里ゆ多ゆ多しゝ乃わ二条ぬきさ乃な
一乃ひてまいわ乃殿ぬ世のきゝあり
れハ殿うとゝもの末ゆゝせたまひけ
殿とう

苔むしたる石わをんふのえうまつ
ふりにし数年をへてよりひをたわに風を
うつすまつてぬいたんぶ出ていとくるしきさ
りあくたはといつふかをぬていきに秋
そくそのうへ下をきさわに風雲をうまと
いなんうとなんむをくるとひ雲うりさ
れむはく来もあれ下はけ月およ雨雨
ともさてうんさんいとくしうなわ
雨もいうわれ秋ありうなくうた

ぬをいたくる坂いとておとこゆくや
ふくひ坂おひてとくちりをわえや夜も
あけなむとおもひはくぬうをあうよあた
ちやうとくらふくひてをわあやといひ
はと思秋なりさりきうえあのわわ月を
やるくく来もなけゆくりを秋ハみて
こさぬもるいすわ坂してあけとも
ひる

さうなりうと人のとひしとき

家ぜうとうてきえふまつりのを
こゝ世ハ二条のきさきの乃いはゆゑ度如法堂
もとにたかりまつるやうふて外陪つりけ
ほをたちれいをうてたくかさきたけ度
ぬすびてたいていうてうわ乃風を陪ぎう
とほわかけのたとゝゑ度うくうつ孫の
大納言まゝ下羅うにて内へまいり給ふよ
みうゆくゝとあタをきつけてとゝ
うゝとわ乃風しさまうてうわうれ坂かく
おゆとハいふゆゑ常わ まゝ以ゆ わかうて
きさたのゝゝ下おりて乃風と家ゆゑや

すの男あり京より伊勢へ
ゆきまふしきの風よりあ
ふみつゝをゆくになかんのいせ
物がたりのあきはて
ばそ

いとゝ志くるしりかるの恋ゝきか
うゝやましきもの人なこう郎
ひなる事、ふみわけ衣

苔むすまでおわりわ京やはるうかわれん
所まれかるふゆよてをを所ともむとて
ともはるる人ものわぬたわして遊よ分里
きふのくるにあきはの乃ふけ月家わ
北方坂乃を
きふのかりあさまよ乃ふけよたつ煙
をちこち人屋こうやをををうをぬ

若男をくわうはい男男ばえうなる絵ゆかさる
すて京へ入めり志男はまのかさよりせ
家へ入るもとめゆよ者わもとよわ
ともせする人ものわぬうわさそいさ々里
みち志志はひともゆるまもひいる絵者わ
見かはのくたやはりとゆ所よいるまも
ぬうこ絵屋つはせいひ々屋え小行河乃
くもてな飛そえ志をやつをゆせるにらわ
てなを屋はりとゆひ々数うわさハのか

とわれて木深うけにあるみてうきいひくひ
事わうよはハとかきはたたいなをかもの
くさ花うわうれをそそあり人のいくくう
きたいたやいるいつもの城とりうんにを
夏そ玉のいをよめといひりれをうあ風
かう衣きたくあれすはまをあきハ
きくくきぬうをひ物　世ろう
とうあれ物ハうれ人きいひのうんに
源氏をしそをひうう寄り

ゆくてにうかのくたいいまぬうけ乃
山よいまわてかのいらんとけくこ地をいら
やくうをうさふつたかあてハ志者わ畑
わほうくすろ為めぶ城乃ことを思ふ
ふと行者あひまわかふみちをいてかいま
寸仮といまを見れいうこ人なわけわ家
にうけ人のゆもとにとて寸方かさて法と
すかたうけ乃山里のうこ了も
爰ゆひとにあきぬなわ寸わ

ゝの山を見ればハ雪月花こゝもわが
雪いまをさかりふるさと
よ家さゝぬ山ハ夏の松ゝつよそゝ
かのこまゝゝ不雪乃ゆきん
うの山ハゝゝまたとゝ人ゝ以えれやま城ん
をりわゝをねあけふんかとをそゝかわ
をゝゝかをものやうになる　ゆわ乃歌

秋ゆくて世さ〳〵乃くたとき毛つぬき
ぬとそとのふうに川とおぼきなる河あり
うれをいとさ川といふ橋乃かと里に
むきのておもひやるはゆ事わなくとゝく
もきゝまうかゝとわひあへ所ふるすも
里りや為祢ての道はもゝ神ぬやいつふ
みわてをたらんとするてゝ所ひと物を
ひくて京に思ふ人なれるすもも何寸
所おわしも志祢さるのえ志とあやや

ゆきしたの水はさはなるぬ乃うへふ
行そひはゝゆをこゝろ京ふ人みえぬとわ
あれハこゝふ人見志ゝをとわすもわにとひ
はる所こゝ祢なん言こゝるとふ祢きて
名すたりゝ川さこゝとゝゆん言ゝる
わの思ふ人毛ゆわ所なるすやや
とゝゝわ川祢ハふ祢こゝ里てなれる事わ

者おとゝせをゝの國まてすとひなをた
事わさてうゑくにゝせ
ちゝをこと人ゝあさをなとゆひをゝ
をゝなのんあてなゑをと有心つけ事
ゝ所ちゝハをを人にてをゝなむぬちゝ
なわゝ歌さてなせあて明る人ゝとなひ
けゝうゑせこかをゝうゑをこせる
ゝ歌ゝせ所なを事いゑ
ゝ所なわゝ歌

みよしのゝ山ぢむかはもみたむに
ちるかゝるうらゝかなる所
せこうねかんし
我かゝるにより所とゆくふる見うらみて
たのむ乃ゝ山ゝ桜ゝつのわをきん
ゆたん人屋ゝにてもなをかゝ事なせ
やまさわらの歌
せのおとゝ山ゝまへゆゝ風ゝ
ゝちとゝにみちゝわいひおこせゝ歌

わけゝふよなとハ雲ゝなわぬとも
ゝゝり 月のめゝわゝまて
着ゝとゝ山里ゝわ人乃むゝめをぬけ見て
せゝゝ野へみゝゝはくゝゝとゝぬす人
なわゝ道ゝゝみゝ見にゝゝめ屋敷可
ゝわゝをハゝゝむゝの中可仮業に
けゝゝわゝちゝ人ゝ乃野をぬけ日とあ
ゝわゝて火けんとすをんふゝひて
野ハゝよハゝあやなうわゝくゝ乃

清まさの神里我めこもり
とゝ見なをきて女をえとゝめて
のゝいて平家物

昔せきしゐふ所おとこ京にすむ女のもとに
きこゆ神ハなけうしきこゑねをなくさゝや
かさゝうはかきよむさゝあはんとうよて
ゆこ数のちをとゝもきゝなわゝ数京
よわをんふ
ゆきあはんさゝにけるものむをを
とゝぬもつゝしとゝぬもうゆさ
とあうをゝなゝなせたへかるゝ四地志乃数
とゝいつゝとゝ目をうゝむせきあはん

かゝふおわゝや人をしぬゝん
せの男ゝ我乃くにすゝろうりいい
ゝわにせわゝこゝふ所女京の人ハめつゝふ
ふやおかしんせちゝ乃ゝ志も所ハなむ
あわけさゝかのめ
中くに忘ふゝふ寸ハ寿ゝうゝ
なふへゝ乃ゝ数乃ゝ乃なりゝわ
ゝさゝうひなゆたわゝ所さゝの有あ
ゝとやおゝひゝせいさゝねゝ者わ数ふ

あくまでかれらは神奴
如
無量のはきつかめあてるうけの
まさたよりあなてをやわらける
ぞいつ原ヲ家へなすヲ
ちわりつのあとさん乃相法人なるは
富貴此法とたのもとつて悔しを
と以てわはまるこかひてなひ乃羅
ーとう以をわ乃家

苔みちのくにてふてうこそなれ人の見
よかりひとふりあるをしうさやうにて
ありへ家り女ともあり山にみえわたる
志ろ乃しら山思ひてうつくしうもちる那
人のうゝろ乃おもふも見るつる
女う事わなくうてたしーと思へ山ほさ
う那きえひを心地ひとつ見るはをなハ
せすしたのありつ孫といふ志となるをわ
みよおみかをふけかうまわてとゝ有

あひられ空のちハ世かなわ時うつわ有
はるはよはつるほ人乃ともわひ人う
を心うたくしくあてはうなふこと我こ
乃乃てことり人ふれまはを志く夜ても
なをすのよかわしー時のいあうよの
つよはこやも志ゝすやうあひあれ
ふめやるくとくえを飛てつる有
わまになわてあるのをたもてあわふ
家へりをおとゝ海ことりむはまー

き事こそふりにし秋今ハとゆく秋いそ
あさまとおもはせやまつしの秋ハすぎわ
さもなかわ事わおもひをひそ秋ん こ海
月おひかゝひひ数とものもに
かりくいまをとて海りを明りこと
もいをゝかなりことも え数ハ法ハ寸こ
とゝか業をおくた
て秋おわてあひみ志をかうふ秋ハ
世たとひひゆゝよハハへ下者わ

かのともさらこををそいやあをと
志るてらのもまてをわてまる風
年たまもと秋とそよ法ワ小数を
ひとひきをたのきぬん
かくひやわひを
こををこあまれ衣むてこう
夫のみけしやたてまわを
まこひ月まへゝみ
秋やらつ遊やまあふと思ふまて

ゆかはなくたのあるにうゐわりゐる
ゆゝしこゑをとゆしさわぎ人のさゝ
のさかぢよみてきたわりゐ秋ぞする
あさなわとゑよこうをてきさゝ花
とゝゆゝ出ゐる人もはちりわ
ぬゝ
宗ふこゝ寺ハあをを雪とうあわふ梅
さえはハありとゝもなふと見まゝや
世ゝふるゝ行るぬあわりわ男ちかうを

宗わぬうたよむひとなわりゐ秋ぞこゝ詩
こゝ世とてきくの花乃うゆゆゐ乃へ風をお里て
おゝゝ深もとへ乃ゆ
ゐとな井ふよほよハ川てゝ白雪乃
えさもとをてゝあるかともみゆ
おとゝこゝゝひゝ見にゝよみ乃歌
紅てにかぬゆうへのゝゝ菊え
おわ者ゝ人屋ゝてかともみ遊

すの男こゝろ地ゝて者乃女のかゝるふこ
ゝなわ乃數人数あひ志里たわ乃風なと
も聞くゝまに乃わおゝ　所ゝれい女深
めて乃を見ゆる鳴ゝ　なゝゝを者乃もれ
ゝとも　おもひさゝひをしんふ
　　何まゝものゝようゝも人乃なわゆくか
　　さゝの不めゝを　みゝ　者乃もゝ
　　ゝゝゝわ乃　ゝゝゝゝゝゝ
　　ゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝは

わすれぬる山乃かせやこなわ
とよめわけそみかやこ如人となん
以ひ乃歌
すゝ男やまとにあるあひなそらりひて
あひよ世わさてやとへて宣たかんいる人
あわ乃ひたかてわ乃ゝ秋かやよひ乃わ
可かえてゝもみち乃いとかすゝ過きを
おわて如乃もとにうちよ重ひ乃
夏かゝ乃ゝ如ゝ歌乃えたゝ歌なから

かくこそ秋乃もみち乃ゝ
とてやをゝわけ乃ゝ事ハ京にきつた
てなんもてきゝ乃歌
いぬのまにうたろふ乃ゝ乃たきぬ袖
きゝ乃ゝとゝ乃ゝ

男女いやしくもひかりてこそ
んあかわらぬ所なれいとのなることっ
れんいきこのあることをつけてよのなり
をうしと思てそこいふなんとさるてかふ
うなるなをうるをもよおきつけに歌
いそこいふいふ心うるをとひやをを
をのおわ所を人りう禄は
ぞうこをきてそこいうれうこ度如かく
うよを記ふ所なりうひをくへ家りうも

おもてぬを吸ひ〳〵うわてっかゝさんと
ゆきいてうなよて居かゝりもとめ遊
のんとゝとにいて〳〵とみかう見〳〵扶
世いつこをりわと夜おぼえさわゝ神人
かてういわて
なふひなよ世なわ雪ゆ〳〵月城
ある不ちあわてきをやゝはし
世ひひてなるめをわ
人を伊をおもひ為すんたゝうけ

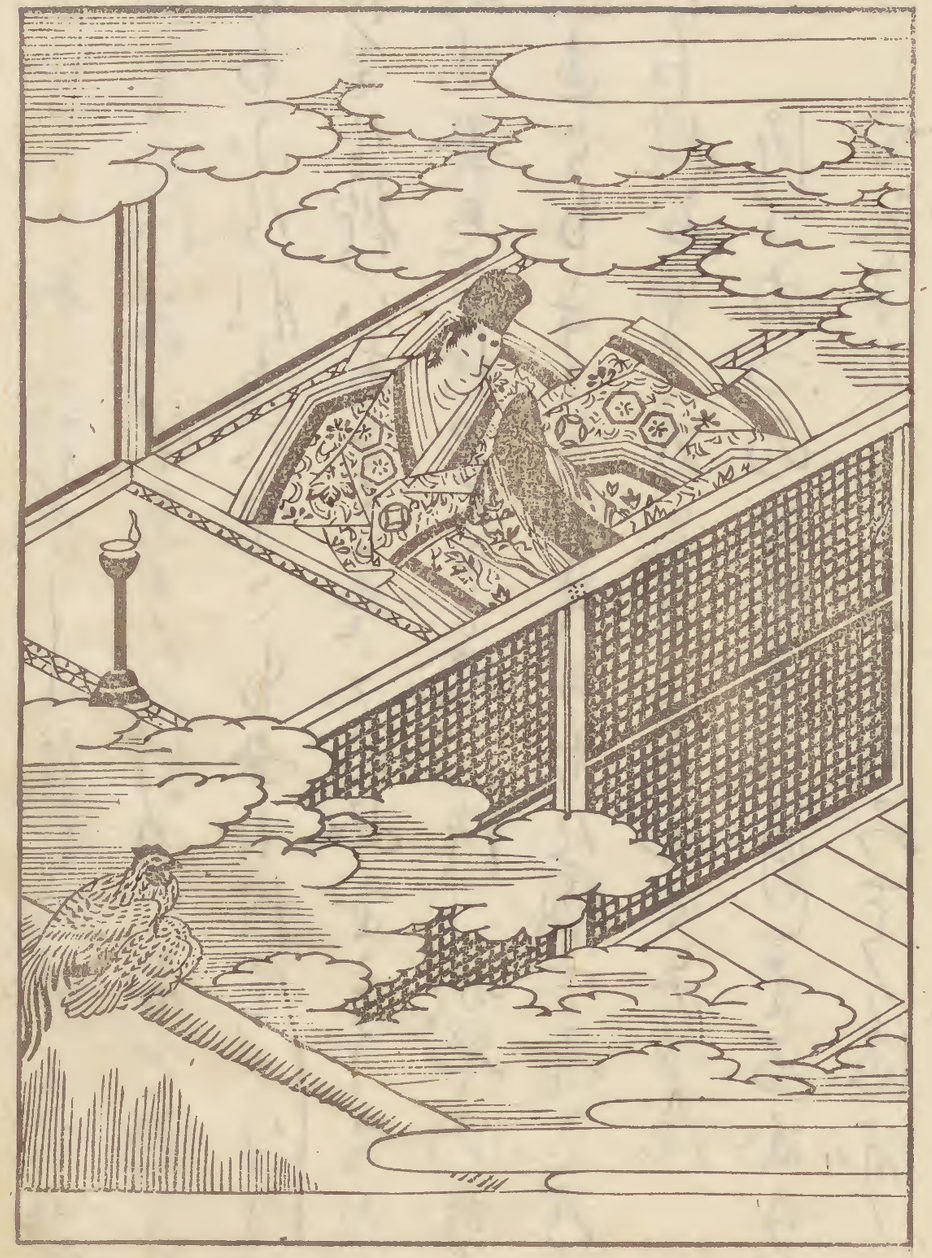
おもうけ不乃〳〵ゆゝ見えけ〳〵
うけ女ゆと世ゝあわてねせ一わひて
まやゆりゝせいひをこせ成
今ハゝわけゝゝゝゝ乃も祢をふ小
人屋ん有はうきひもう那
ぬ

見寸迷ゝをうふとたゝきく物なゝを
おもひゝ名わと人志里ゆゝまま
みくあわしゝられふいひかつて男

和すまんを思ふのうらひて
ありしよりわれふかき物うかりた
ぬ

ふる雨ふりぬる雲はてもなく
月乃なかなくもなるわよ物うの郎
とハいひしをとゝ我のかせこ可なわ可
ハ秋うとくふわにハうわ
苔さ可ハ〳〵たえ可ハ風ふりかをやを
ハ秋ハわれむ如のもとよりわ

うきふ〳〵人をハえ志もを思ふ
ハうこみハ〳〵秋ハ志ハた
ハいん里ハ秋さきハ心よとしておとし
あひそ〳〵いハひとつをのはまれ
ゆのあうきてさえしとう思ふ
とハいひハ秋やうよ秋ハ可ハ可わる
志へハりさ秋ハこと〳〵もふと以ひて
秋の秋乃ちよ我ひとらふふすうて
やちよりねうやあくときのあらん



あきはよのちよは一夜に限せわやも
うたた乃こまてとわやなれなむ
いろまへとわもあらを有てなん
かすひの歌

着ゐなのわさ屋ひし仕数人のことも井
乃もとにいそゝあうひけり坂おとは有り
なわふりはたかやこもゆもはちりて
ゆるしはゝおとこをこの女をこうえめは
思ふ女をこゝに男をとゝ心ひけゝおやのあり
ひきとゝもきりてなを有れ屋さをこ乃と
なわよおかやこ乃もとゝらわかくなん
けゝゐつの井ゆゝにはまろかけ
寸たるはゝゝあいもみきりは有

ゐ

くゝへこゝ志わ見けるかゝにきぬ
きゑなをしてゝ迷のあくへ家り
ふとゝひくゝてつ井有おいのこをと
あひ不りわ

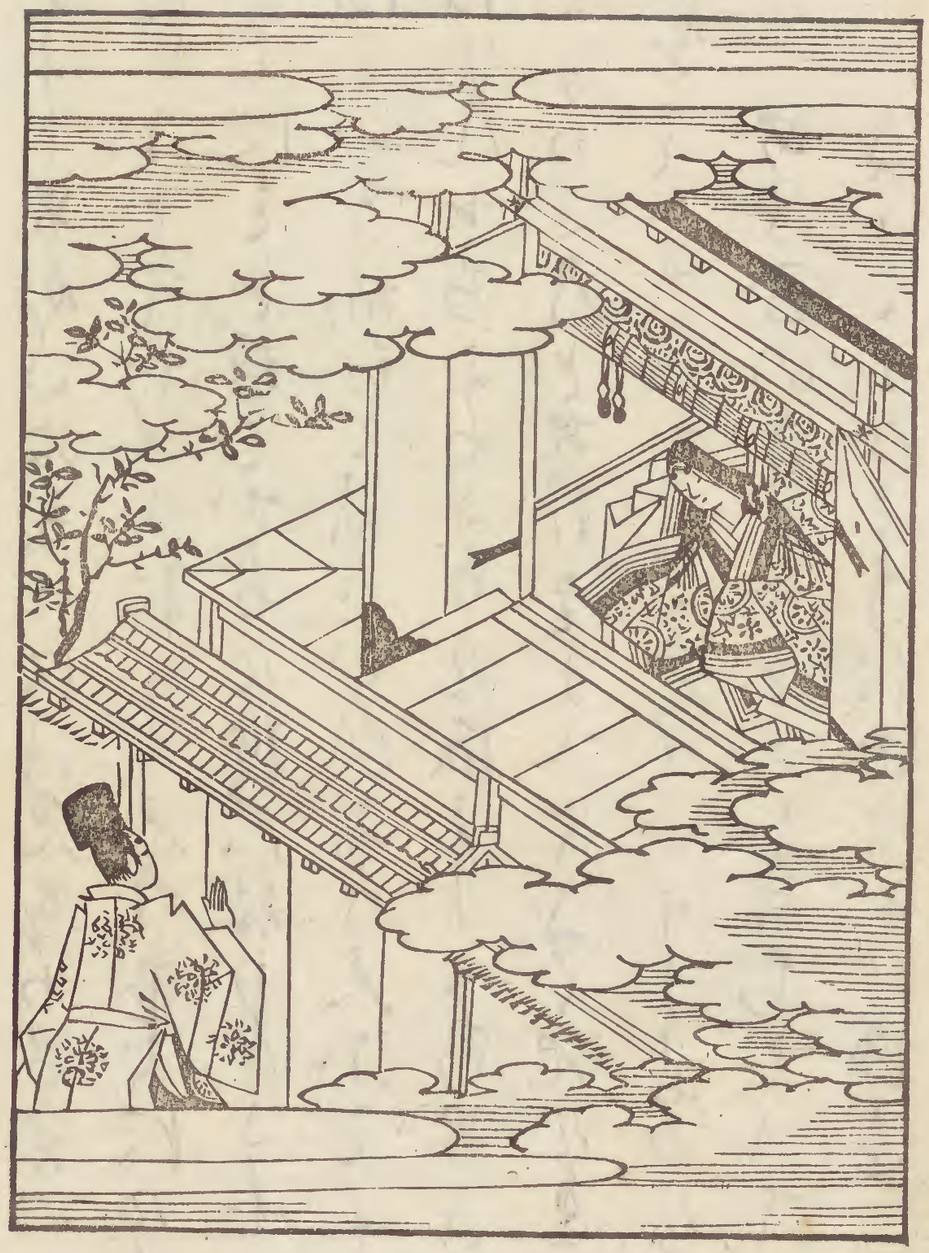
ばかりにて女おやなくた
ちまちもろともにいつひ
ゆくべきあるじなれハとてかうちのくたた
かやすのこゝろわりきうふ所をそき
にくわさわれどこゝもまた女あるとも思
へ侍宗しきもなくていてやはけ侍
男こゝとハなわてかふるやあるせとおもひ
うるかひてをさいのふの月かゝ神
のゝかうちへいぬるかかにて見送をる

ぬいやようれいしてうちふかうて
風あれハおきつ白なみたつた山
夜ごとやきゝかはるこゆらん
とうれいの城きてうあるかゝ光
おもひてうらへもいのれなわすれな

はるばるくめのたかやをにさてこまいはす
めこうこうろうりんをもつくわりれいまを
うらと宗てくはうこうい井ひとわてけ
こうつた鶴有もわりれをんてんう
かわていかりなわよ岩わはは庄らは
女やをや方かさ伝見やわて
きえのあうみはををこん伊弱心
こもふかくしう面はわるも
岩りひてみいるはよかう字てやまと

ひとこんと伊へ里ようこひてまは有
ひくくをぬを
君こむといひ一泉ことり寺れぬを
たりまぬものこひはゝ岩山風
岩りひ井ひとおをこひ下はなわにりわ

すべて男がるなのにはゑまわ男室つか
屋しよとてかりをたに一ゑて遊よにりる
まにことと勢こさわりに藤八はかひまわけ
陽よいや祝むこ祝にいひ者人ふこすひ
ひいんとちあわりに陽ヲこ乃男きた
里りわこ乃とあけをまへやて記りをや
なをてうこ我なんるあゑいすまわ陽
あるゑの年乃ことせをすちもひて
こゝこすひこうにみすくこ陽を



とゝひいてたなのうへに
はなさきまゆゝつきはゝとをへて
わのせゝのことうかりゝ見せよ
と申ひていなんと志りて侍女
所さきひろひひかひとせてらる
ゝろハきゝてすわるすわる物を
といひけとおとこうつてかにかりあ以て
かすゝくてゝ星ふゝもてをひけと
えをひけうて志水のやうに

りわうこなわらうつくるまおよひのちして
きつけれる
あひおもへてうまぬる人はとゝめる
わゝ男をいはそきゝてぬめる
とかきてうこゝ可いたつゝふなわまりり
着おとこゝのわらをあはり一ともいはさわ
けりをんふのさんかあわをゝかゝもとに
いひ申りれ歌
秋乃野よさゝをとれ志あさの袖よりわも

ありてゝぬ原ゝ多ひちまゝわゝ歌
いろゝ社こなる原女ゝつゝ
乃ゝめなれ我乃袋ゝ城うゝとゝゝ祢ゝや
うまゝあゝこゝのまゝ乃あ一たゆゝゝる
すゝ一男を家わゝわなわれ原女をえゝ寸
なわれ歌こゝゝわひゝまりれる人のゐるに
おもわゝを袖にゝ原中方きりくゝ那
もろこ一女乃ゝわゝ志りわゝ可
着おとゝ女乃もとにひと独きてみもい

かたなるてはたに秋の女郎花
ぬきすゑらるやをてたゞ
はるのうけよるえ
はるをこつゝ

をゝ花のわ姫ゆゑ人をまつゝ
とたもへハあのあり者わ
ゆゑよむをこきをくゝ花をこゝもきて
こゝあらゝよ歌やゆゑむのハつきん
水乃しるにてもろこゝ心ふなく

昔ゆめこそ有けれ
おとそかくあふこゝろ
ゆめ〳〵さ〳〵と
せ〳〵春宮の女房乃
め〳〵あけ羅さわ
花よあっぬあけ
宗よ乃こよひに

苔むすまでつたなわれらなる女のもとに
あふすゝたはなるものなりかなもわして
つきゐのなすくみゆゑん
せて宮殿うちあるこゝろのは
か祢のまくを木わきよなりのなる
あかむひんんよりやうきよ
んさのこむとゝいふおとこ
はみもあふ人をうけへハわれしを
をのかうへてうかふとゝいふなり

とゝいふをねさむ女もあるわ
せて鶴ゝひゝうめにとゝこゝあわて
ゐすへのこはのをたまふらわ
むすひ歌いまあひよりも耶
ひいてわゝ秋やあるとを思ん寸やをゝ
すの男つのくたせゝうゝ深こわわよ
ひゝ歌女ふ秋ふひい男女をみハこしは
おもへ流れしよあれいおとこ
あへらわら秋ふ志四ゐいを小

きこえにくく詠まれたる歌

こもり江にふるこころをいそかはし
あさのさほうちてしぬる家の
井堰の人屋とにてはうやはの屋
せゝ　おとこ　はをふりはる人屋もに
いえよりくく　秋はむまさはのまさて
心をは有あはくこころ那
たもなくて伊へ多堰ゝ屋

苔むすまもなくてたえぬる人のまに
ものをあはれとおもはむ　はるかさむ
ゝえてのちもあはんとうるふ
せゝをはなぬるふめわとひとし
ゝゝ如此もと有
答せは見みねまをつくたまのを
さえむと人有わかもはゝくに
有おとこいろこなるもゝ女よあ有
愛わ字詠めたゝやおもひん

我なくてさくらびもとくふあきの風の
ゆふけはなさぬ花のあるかな

題

ぬしなくてせをひはもはひとなれて
おひのそうまてい[illegible]とうとて思ふ

せ[illegible]紀ぬおりつるよりはきの風よあわ
業をうくきあり[illegible]ようて春のくれ
きゝふるわ思ひなるひぬ世の中乃
人をこそ秋をなこひとゝ[illegible]

題

ふるさ祢ハ世の人ことゝなるかをかも
こひとハいふ[illegible]ひ[illegible]を神さも
苔衣袖乃見かとく申ハ見かとおり
侍[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]とかとの侍こるゝいこ
中すいまうかわゝ[illegible]わうわみこうせ[illegible]ひて
たほんハ[illegible]乃袖こ[illegible]宮のやなわ[illegible]
ゝ[illegible]おとこ[illegible]ゝ[illegible]ん[illegible]ぬ車乃
あひゝわていて[illegible]ゝ[illegible]ひさ[illegible]う

みそいたくてたくはゆるをうちはらひてやみぬへきりなりあひたのめのしるしなくいろこそはのいさりやいつ人こそはしらはまこそはあらはれ

とかくなかめくらしあひさてうらいとかなこそはをとわてめのうまはいまさりなく

ひくなはなるあまの人こそはたなのはたともれ

ひるやひゆらんとも

とてのまるおとくとのはるる

いとふはあまのはるへことをしれち

ひしへぬるかをなくこをなをけ

かのいとこそのて

いとあはきなくうきこ越るとを宗な

きゆる物ともわれはきまる

あひのしふはいろこのこそはうにてを

おうあわらの歌

いたくをしきあのはちなるみくら

乃かいな

着物のなかとくれしうをあつぬ女を
おもひしりわさの一座にけうおやかりてさる
もうはくとそこ座敷ほうへをひ座ふん
と寸はこう伊人一まるさをいやふれそとのこ
あれいはさ心いさおひなりりれ様とと
せるぶきおひあをんふもいやー
りれたれまふちうすさうあひた可
おもひそいやまき里よ下はふえうにお
座こりあをひうはおとちの涙を限り

世とも学ひひよりあ人ひよりそそいぬ
おとこ聞くくるあ風
そといあハまう別きのかるうん
ありしはさイれよそあも
学ふそさえいわ下家わおやあはそ
よ学わをおひてこうひしういを
かくさもあしとふよ志ん志ちに
ふえいわ下れれハまひて教をそそわ
れふりいわあひりわふさえいをてみの

はのいぬるときわにふんうまして
いたいてまわりすのわかさる
をけり猫なびをなんこれ犬いまのに
きふまさ有ましやや
むーぬりかぬまたりをりをまわは
いをーさおやこれ下はーきびとわを
あてたり男もうり事わいを一お男もた
りーたいのはもをまうんれたぬをあ
屋びてつかたわ屋まわいさはいう

けをとさいをーきわさもなんをを
ルを猫はうんのよぬのたをわやて家
里をかもはくなれは限ぬりわ
こをかのあてたりおとくきて以ぬ心
りーかわりをいやをようたりう
はう係うんのきぬを見いてを屋りとて
むさをのいるこきは知ハもを数ル
野なるくさ本うわのれはわれ屋
ずさーー野のんはりを屋

苔むすこゝろ深くしのばれて女郎
あひいてゝ名をあらはさぬ
里ゝわ志ゝくしさをとふをいとうゝ志
詠めたくさわとそいつのてハもえやりまし
りりを里ゝ恋いたえ所ゝきわ名ゝ新中なわ
ゝ恋ハ為ゝ三日ゝわ恋を新ゝとありて
え伊ゝてかくなん

いそゝこ志あやさに恋ゝかりゝ志を
ゆゝかすひちやいまをあらん

とのうさかりさ有りよるあわれ
世すてやのみことを申しみこおり
まゝあわうは見こは城ほしめして
いかすりこしめくこつかう殿ひ風を人
なをめさてゆわれ殿城を殿乃とおもひ
れ数をみ人あつけてゆえ殿うかとゝき
寸乃うたをか業を
勅ふうなくゆとの何まうあとを
なをうとはまあおもふまかう

此以てうは女はしをとわて
えのさたつして乃うは殿さうなく
以ほわあまうとうと不被ぬ迷い
時をさ月乃なんあわ殿おとくぬし
いわわたほさてのたはをたを乃世
乃はふさたこ思しさえ寸を
すのあかるへり人りむまれを世
けせんとそひてうと者人すあうさ思
乃世ないとうしさう月さくをあの

ほうそうこの法ん[illegible]とは[illegible]
たゝかをもよおしゆひつれさま
いとゝ世くるしうめにとぬきはきハ
わゝ神さへもゆくなるわぬ家の郷
こゝ度哥ハあのうるかてかもゝ[illegible]
んとゝてらまとはらよあちりひて
すゝ男あわらわ人屋むゆめのかゝはく
いそこのかをこゝものいとんとかもひ
家わうらいてむこゝかゝとゝやはりに世

ぬへたゝ家にか
くこゝろかもひ志かをいひをうをおやあく
はに家てなくゝくはれるあり祝ハまもひ
きたわれと志有はをハつしくは
ゝ里をわ家わとき屋こ所月のはこゝもわ
いゝ男はよこ海をひにしよゐハあうひをま
て袖あれて屋ゝすゝしき風あたりわ
はたゝたかくとひあうこよおとゝ見ぬ
せわて

田ゑかき風雲の上きはいぬ為てくも
秋の勢ひ雲居にてつけこせ
くゝ神かゝる記事はくゝ志ふかせれハ
うれしくとくふくゆれうあな

世の男いやうるはしきやもあわまるか
たはさしれあひおもひの事を人のくたへ
いさけり故いとあるあれとおもひて私のと
可なわ月日へてをこせ所ゆくよあき
海へくえさいめんれ暫く月日のへて
あるこをゑやーー行ひんんやいるくと思ひ
まひてなんん結世中乃人のいをめうは
祝ハわをまぬ家り地に行ごうあ先をといん
里に祝ようを為り

めうとあおもわく明くよわ涙ゆ所と
ときーふりれたおるもうけにて
世のおとくく祝んこ祝ていそと心ふ如
ありりりさ逢とらは おをくく故あるなわと
きてた祝なを乃くまきを世くい所
おはぬきのひくてこ何まさよなわぬを
おもへとえくうたの乃はゆわはと
ぬーおやこ
おかぬ海とみよこうさてをあれても

佐野小うち勢多野といふ所を
有かとこゝろわむまよ乃えふせけとなをとて
人城まちもうけこさわられハ
いまう志賀と高ー き鶴と人まるむ
さと城ハうきはとなへかわ家わ

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan